1

2

3

4

5

キッズスタジオ・プログラム

Kids Studio Programs

「子どもたちとともに、成長する美術館」を目指し、子どもたちがアートに親しみ、主体的に表現できる場を開いた。週末・休日プログラム「ハンズオン・まるびぃ!」では、各時期の展覧会からテーマを選び、「できるもんね!アートテクニック」シリーズとしてパルプワークやソーイング、スタンピングなどの技法にフォーカスした造形表現に取り組んだ。作家とのワークショップでは「西京人」展で小沢剛が小学生らと紙袋を身に着けて変身し館内を探検したほか、地元作家の林一平が中高生と木彫に取り組んだ。また、平日プログラムでは火・木曜に「まるびぃ すくすくステーション」として、乳幼児連れ向けに休憩と情報提供の場を開いた。

（木村健）

To help ensure the museum is a place that will “grow in spirit along with children,” we created spaces where children can familiarize themselves with art and express themselves independently. At the “Hands On MARUBI!” held primarily on Saturdays, Sundays and holidays, children engaged in formative activities with a focus on acquiring skills such as working with pulp, sewing and stamping as part of the “You Can Do It! Art Techniques” series, with themes chosen based on exhibitions at the museum. Workshops with artists included one in conjunction with the “Xijing Men” exhibition in which OZAWA Tsuyoshi and a group of elementary school students transformed themselves with paper bags and explored the museum and one in which local artist HAYASHI Ippei tackled woodcarving with junior high school students. As for weekday programs, on Tuesdays and Thursdays during school terms we held “MARUBI SUKUSUKU Station” as a family information and free space for preschool children and their guardians.

(KIMURA Takeshi)

1. 「ハンズオン・まるびぃ!」活動風景
プレイルーム「ちぎって ならべて おこのみパルプワーク」

2. 「ハンズオン・まるびぃ!」活動風景
「西京人」展　小沢剛ワークショップ
「ふくろの国へようこそ」

3. 「ハンズオン・まるびぃ!」活動風景
「工芸とデザインの境目」展関連
プレイルーム「稲わら わら縄 なに作る? 」

4. 「ハンズオン・まるびぃ!」活動風景
「素材と遊ぶ　木と遊ぶ」林一平ワークショップ
「木工魂で作る!こぶポッケ」

5. 「ハンズオン・まるびぃ!」活動風景
「コレクション展2 ダイアリー」関連
プレイルーム
「みつけたカタチ わたしのスタンプダイアリー」

キッズスタジオ・プログラム
Kids Studio Programs

A. 休日プログラム「ハンズオン・まるびぃ!」

事業名等	開催日	内容	参加者数
ARTS PLANET ワークショップ 「COLORFUL WAY」	2016年 5月3日(火)、 4日(水)、5日(木)	スタジオ内にダンボール製のレールの部品をつなげて線路を敷いていき、 共同で架空の都市を作りあげた。 講師:イフブランク 料金:300円	280
「西京人」展ワークショップ 「ふくろの国へようこそ」	2016年 7月23日(土)	現代美術家の小沢剛と紙袋を用いて帽子や服、 トンネルなどを制作するワークショップを行った。 講師:小沢剛(現代美術家) 対象:小学生 料金:無料	35
「工芸とデザインの境目」展 ワークショップ 「足元から見つめる未来」	2017年 1月21日(土)	稲わらを用いてわらじを編み、それを履いて展覧会場で 展示物としてのわらじを鑑賞する体験を基にして、 自分なりの工芸とデザインの要素を考えて話し合った。 (インターンシップ研修生による企画立案) わらじ制作指導:くまがい 料金:500円	11
「工芸とデザインの境目」展 ワークショップ 「木工魂で作る!こぶポッケ」	2017年 3月4日(土)、 5日(日)	高校生・中学生を対象に、地元木彫作家によるワークショップを行った。 本来、捨てられる虫食いの木材や皮、瘤を使い、 自分だけの小物入れ「こぶポッケ」を制作した。 講師:林一平(木工作家) 料金:1,000円	4
プレイルーム	上記ワークショップ等のプログラム実施日以外の休日 (のべ125日間)	親子での自由入場の形で、子供が主体的に造形表現を楽しむスペース。 ブロックや日用品の形を組み合わせて遊ぶ「かたちで遊ぼう!」のほか、 下記のように展覧会や季節にちなみさまざまな素材や 技法に親しむコーナーを展開した。 ◆主なコーナーとその内容 4–6月…「ちぎって ならべて おこのみパルプワーク」 「コレクション展2 歴史、再生、そして未来」の三瀬夏之介作品にあわせ、 溶きパルプと紙片によるコラージュを制作した。 7–9月…「ぬうと誕生! 妖怪パペット」 「コレクション展1 Nous ぬう」にあわせ、パンチで穴をあけた紙を毛糸で 縫いつなぎ自分だけの妖怪パペットを制作した。 10–12月…「みつけたカタチ わたしのスタンプダイアリー」 「コレクション展2 ダイアリー」にあわせ、反復と変化の表現も取り入れて、 練りゴムを用いたスタンプによる絵日記を制作した。 1–3月…「稲わら わら縄 何作る?」 「工芸とデザインの境目」展で展示された草鞋をとりあげ、稲わらを綯う体 験とそれを素材とした立体作品の制作に取り組んだ。 対象:子どもから大人まで(幼児は保護者同伴) 料金:無料	8258

B. 平日プログラム「すくすくステーション」

事業名等	開催日	内容	参加者数
「すくすくステーション」	火曜・木曜日 (休日等をのぞく。 のべ68日間)	乳幼児連れの来館者のため、 美術館の情報コーナー及び休憩スペースとして運営した。 対象:未就学児と保護者 料金:無料	1652